

# 三間高人権壁新聞

2017.12.19. 制作:生徒人権委員会

皆さん、こんにちは。今回の人権壁新聞では、11月10日(金)の人権・同和教育ホームルーム活動について、その内容と感想を紹介します。

## 1-1 様々な人権課題Ⅱ

—よりよいクラスを目指して—



2人組で「自己紹介」を行い、趣味、頑張ったこと等を語り合いました。そして、「みんな違、それぞれいい。」ということ学びました。友達の新たな一面を知ることができて良かった。さらに、相手の気持ちを考えて行動することや、何かを言う前に考えてから話すことも大切だと思いました。このクラスのみんなと、仲良く学校生活を送ってみたいです。

## 2-1 人権の歴史Ⅲ

—近代(「解放令」と水平社運動に学ぶ)—



被差別部落の人々が自由と平等を願って立ち上がり、皆で力を合わせ、全国水平社を創立させ、「全国水平社創立宣言」を作りました。そして、同和問題を解決しようと、前向きに運動していきました。「自分には関係ない」という「他人事」の気持ちをなくしていくことが大切です。また、人権問題について学んだことを、周囲に伝えていくことも大切だと思いました。

## 3-1 結婚差別とその解消



生活の中で結婚差別に直面したとき、どのような行動ができるか、皆で考えました。「結婚を反対されているから、諦める」というのは差別がなくなるまで、差別に加担しているのと同じであるということも学びました。親も自分も差別者にならないために、差別と他の人や世間のせいにあるのではなく、自分のこととして考えるということが大切だと思いました。

## 1-2 様々な人権課題Ⅱ



人々として生きていくためには、「識字」が大切です。差別と貧困によって文字を学ぶ機会が得られなかった人々にとって、文字を学ぶ直すことは、生活上の不便をなくするだけでなく、差別と闘う力を身に付けるという意味もあるのです。識字率で学んだ北代色さんの、「やけがうつしい」の手紙には、入としての誇りと生きる力を取り戻したことが表れています。

## 2-2 人権の歴史Ⅲ

—近代(「解放令」と水平社運動に学ぶ)—



かつて差別から逃れようとした西光乃吉さんが差別と闘うに至ったいきさつや、「全国水平社創立宣言」の言葉に込められた人々の思いから学びました。私たちは、相手の気持ちになって行動すると共に、お互い尊敬し合うべきだと思いました。そして、差別を解消するためには、人権問題について学び、できることから行動していくことが大切であると感じました。

## 3-2 だれもが幸せな社会を実現させよう

—幸せな結婚のために—



結婚差別があるということを知り、自分も差別者にならないように努力して学びました。今後は、差別をなくしていくことです。然、それでもなお結婚差別が根強く残っているのです。同和問題はいつか終わるまで必要な人権問題として、正しく理解してほしいです。もし、差別が人からいたる。「これは間違っている」と注意できるようになりました。自分も人権者になれるように思いました。